

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3770600090
法人名	社会福祉法人志度玉浦園
事業所名	グループホーム志度玉浦園
所在地	香川県さぬき市志度1610-1 (電話)087-894-5868

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成21年12月17日

【情報提供票より】(平成20年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 4年10月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 1階建ての2階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 890円				

(4) 利用者の概要(11月18日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	名	要介護2	名	要介護3	4名
要介護3	4名	要介護4	名	要介護5	名
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88.5歳	最低	82歳	最高	94.8歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ハロー歯科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人理念である「利用者本位の介護」「清潔・親切・笑顔で介護」「利用者の自立に向けて」をグループホーム(以下ホーム)の理念として掲げ、利用者日々実践している。年度事業計画も立てられ、毎年、利用者の自立支援に向けたサービス提供の向上を図っている。ホーム建設場所が山裾で利用者の身体機能低下も重なり、外出支援があまりできない状況ではある。特にホーム玄関から出ると危険な坂があり、利用者の安全を考え自由に外出できない環境でもある。しかし、広いフロアを活かした住環境であり、ホーム内でも四季を感じられる工夫と歩行訓練などの自立支援に向けた生活習慣づくりを実践している。また、安全・安心な外出支援を念頭におき色々工夫をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善点である「苦情箱」は設置している。外部評価と今回の自己評価作成を通して質の向上につなげるよう全職員が取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員間で分担・作成し管理者に意見を求めている。外部評価事業における職員の理解度が高く、ホームがより前進するための意欲は非常に高い。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地元住民・民生委員・老人会会長・行政・地域包括支援センターなどからなる運営推進会議を3~4か月に1回定期的に行い、会議議題としてホームの現状や高齢者・認知症について協議している。当日の会議録を管理し意見としてホームのサービス向上に反映している。地域密着サービスの役割である地域の高齢者にかかわる情報を発信する場という認識をもち、会議議題の軸を「地域」とし会議を発展させてもらいたい。例えば、ホームとして近隣地域の高齢者の災害・防災取り組みを地域住民と協議してはどうだろうか。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしぶりは家族の面会時に報告しており、病院受診した際は、その都度家族に連絡している。また、ホームとして暑中見舞い・年賀状等年2回、法人全体として広報「玉浦」年3~4回文面にて家族へ報告している。家族からの申し出があれば、利用者のケース記録の情報開示をできるしくみがある。家族などが意見、苦情などを管理者や職員などに伝えるしくみとして苦情箱が設置され、意見などをホーム運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域が主催する文化祭に参加し、ボランティアが本の読み聞かせに月2回訪問しており、年2回保育所の園児が訪問している。近隣に対して多岐に渡るホームの周知活動をされてきたが、あまり成果が出ていないようなので、さらなる近隣の人々との交流を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である「利用者本位の介護」「清潔・親切・笑顔で介護」「利用者の自立に向けて」をグループホーム(以下ホーム)の理念として掲げ、利用者実践している。年度事業計画には地域との交流について記載されているが、理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した項目は見られない。	○	地域の独自性はあるが、地域密着型サービスとしての地域の役割を目指した項目を理念に掲げて欲しい。従って、事業目的の相違観点からホーム独自の理念をつくりあげることが望まれる。その理念に基づいて年度事業計画を立案し実行・評価・改善してもらいたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員ひとり一人が理念を理解しており、定期的に「ユニット会」を開催し、日々の実践の中で理念の具体化をはかっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域が主催する文化祭に参加し、ボランティアが本の読み聞かせに月2回訪問しており、年2回保育所の園児が訪問している。	○	近隣に対して多岐に渡るホームの周知活動をしてきたが、あまり成果が出ていないようなので、さらなる近隣の人々との交流をはかって欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価と今回の自己評価作成を通して質の向上につなげられるよう全職員が自己評価に対して意見を出している。自己評価を職員間で分担・作成し管理者に意見を求めている。また、前回の評価結果に対して苦情箱の設置をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元住民・民生委員・老人会会長・行政・地域包括支援センター職員などからなる運営推進会議を3~4か月に1回定期的実施しており、会議議題としてホームの現状や高齢者・認知症についての話し合いをしている。当日の会議録を管理し意見をホームのサービス向上に反映している。	○	地域密着サービスの役割である地域の高齢者にかかわる情報を発信する場という認識をもち、もう少し会議議題の軸を「地域」とし会議を発展させてもらいたい。地域密着サービスとして近隣地域の高齢者の災害・防災取り組みなどを地域住民と協議してはどうだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営上、疑問点があれば、その都度、管理者は市役所へ外向き意見交換している。サービスの質の向上のために市と共に取り組んでいけるように関係づくりを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは家族の面会時に報告しており、病院受診した際は、その都度家族に連絡している。また、ホームとして暑中見舞い・年賀状等年2回、法人全体として広報「玉浦」を年3～4回文面にて家族へ報告している。家族からの申し出があれば、利用者のケース記録の情報開示をできるしくみがある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などが意見、苦情などを管理者や職員等伝えるしくみとして苦情箱が設置され、意見をホーム運営に反映させている。現状として苦情箱投函はない。家族などの面会時率直な意見を言いやすい状況をつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動については、利用者が馴染みの職員による支援を可能な限り受けられるようにしている。また、新人職員をホームへ直接受入れるのではなく、併設の特別養護老人ホームから中堅層の職員が異動している状況である。職員間での認知症ケアの質は保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会はある。法人内で新人研修を実施している。また、法人外研修は「ユニット会」で報告し全職員に周知されており、研修報告に基づいてホームへ反映できている。だが、幾分参加回数が少なく、研修会案内が現場職員まで周知できていない状況がある。	○	法人外研修は全職員に周知はしているが、認知症ケアに関する研修会は非常に多い。研修案内を現場へ周知徹底した上で、年度の研修計画を立案することが望まれる。また、職員が段階的に研修参加できるしくみの構築が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は地域の同業者と交流する機会があまりなく、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問までには至っていない。	○	他のホームがどのようにサービスの質を向上させているか、職員間でも要望があるため、近くのホームの見学や会合の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを利用する際には在宅状況把握、ホーム見学、予約、事前調査、利用開始と順を追ってサービス提供をしている。また、併設の特別養護老人ホーム・通所事業所利用者の知人の方が多く、面会やホームの行事などに一緒に参加しながらホームの生活になれていただけるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に食事・会話・作業をしながら可能な限り家庭的な雰囲気を提供している。ホーム内での共有空間が広く、多岐にわたる作業ができる環境である。しかし、ホーム建設場所が山裾で利用者の身体機能低下も重なり外出支援があまりできていない。	○	職員数・利用者の身体状況・ホーム建設場所と非常に外出支援については難しいが、近くの農園へ職員と行ったり、マイクロバスの利用頻度を少し増やすなど計画に基づいて外出支援を期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前調査において、利用者から生活歴や日常生活の状況を把握し、利用者・家族の意向の把握に努めている。利用者の意向の把握が困難な場合は、いい関係づくりを優先し経過をみて利用者の意向を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・職員などと話し合い、介護計画を作成している。一人ひとりの利用者台帳があり、フェイスシートなど・入所判定結果・医療情報・ケアプラン・生活状況記録・バイタルサイン・食事・排泄・個人別生活状況記録と機能的に整備され、介護記録・看護記録と役割を区分した記録である。しかしアセスメントが身体機能を重視した評価基準で認知症ケアの根拠が抽出しづらい	○	利用者の生活歴・背景や現状の言葉を特定な基準のアセスメントに落とし込むことが、一人ひとりの認知症ケアの根拠にもなるので、アセスメントの改正が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常、更新時と状況変化に応じて介護計画を見直しているが、その根拠となる課題抽出したモニタリングがない状況である。	○	毎月記録している個人別生活状況記録を、モニタリングとして置き換えるなら課題項目を追加してはどうだろうか。アセスメント・ケアプラン・モニタリングは一連の流れとしておさえてもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
。					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、生活相談員を交えて、カンファレンスをおこない、適切な生活支援を実施している。ホームから併設しているデイサービスの利用はないが、通院などは職員が協力している。柔軟な支援を試みている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、近くの病院に定期受診している。突発的な症状の場合は、希望の病院受診とかかりつけ医の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム利用時に重度化にかかわる説明を家族にする際に、特別養護老人ホーム入所や病院入院の意見がある。具体的に救急処置については職員が実習受講している最中であるが、人員配置上ターミナルケアの実施は困難である。重度化した場合は、利用者や家族とよく話し合い方向性を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各部屋にトイレを設置している。殆ど、共有空間に利用者はいるので、トイレ時の声かけとかプライバシーを損ねる声かけとか職員はしていない。一人ひとりの排泄リズムを把握しており、早めにトイレ誘導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がどのように日常生活を過ごしたいか希望を聴く努力をしているが、まだうまく掴みきれていない。利用者一人ひとりの希望に対して人員的に対応が困難な場合がある。	○	利用者の多岐にわたる希望を実現させるために、家族と相談・協力を今以上をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食事」を料理から後片付けまでと職員は認識している。利用者に農園で取れた大根菜・玉葱を洗ったり、じゃが芋の皮をむいたりできることは手伝ってもらい、話ながら食事の準備をしている。片付けも当番制でおこなっている。食卓の壁に食事メニューと片付けの当番札が掲げており、職員・利用者が食事を楽しむことを理解している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴者が現在いないため、利用者の希望で昼間入浴している。事前のバイタルサインチェックで状態把握し入浴となる。入浴拒否の利用者が以前いたが、今は入浴を楽しめるように働きかけているので比較的毎日入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの能力・生活歴から生活上の役割を把握し支援するよう努めている。具体的に洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗い、清掃、園芸をおこなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者全員一緒にマイクロバスにて外出しているが、一人ひとりの希望にそった外出は家族にまかせている。重度化に伴い外出支援は厳しい状況だが2か月に1回取組んでいきたいとのこと。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関から出ると危険な坂があり、利用者の安全を考え自由に外出できない環境である。インターホンで玄関の開放をしている。	○	利用者の安全性を考え日中鍵をかけておくという認識より、利用者の生活状況及びホーム内で職員・利用者の動線を考えて、必要に応じて鍵をかけているという認識が重要であり、具体的な開閉時間が変わらずともそこから鍵をかけない工夫が見つけられる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時におけるマニュアルがあり、全職員は理解している。年2回避難訓練を実施し今年も夜間想定して消防署との共同で実践した。地域との災害対策での協力までには至っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士がおり、毎日毎日、栄養管理のもと調理をしており、利用者一人ひとりの体調に応じて工夫している。また、農園などからの食材を用意したり、季節に応じて食事を提供している。栄養のバランス・水分摂取量は確保できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が5か所以上あり、センター中央に吹き抜けの庭園があり、石造の設置・鳥の飼育とすばらしい空間である。室内では季節の花を飾り、季節感がある作品を作り飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り利用者の使い慣れたものを持ち込み、利用者・家族と相談して居室作りを行っている。		